

# 京都教育大学 F D ニュース

No.62

2012年3月28日

FD委員会

\*\*\*\*\*

## 「平成23年度大学院授業アンケート」調査結果

平成23年11月21日～12月7日の期間、授業の改善に役立てることを目的に大学院教育学研究科授業アンケートを行いました。以下、設問順に結果をまとめましたので報告します。

授業アンケートは、院生の学習意欲の向上をはかり、授業担当者が今後の授業改善に役立てる目的で行っていますので、FD委員会ではこれらの貴重な声を参考に今後の授業改善の方策を検討していきたいと思っています。

### 質問1. 所属専修をご記入ください

提出者数（所属院生数）で表すと、学校教育専修：17(49)、障害児教育専修0(11)、国語教育専修：5(8)、社会教育専修：1(17)、数学教育専修：7(12)、理科教育専修：10(20)、音楽教育専修：3(8)、美術教育専修：0(16)、保健体育教育専修：2(9)、技術教育専修：4(8)、家政教育専修：2(4)、英語教育専修：6(9)となり、全体では57(171)で32.7%の回収率でした。もう少し回収率を上げるように工夫する必要があるようです。

### 質問2 (a). 本学大学院で開設されている科目の内容は、あなたの期待に応えるものでしたか

「期待以上」は6人、「期待通り」は36人、「期待外れ」は3人、「科目による」もしくは「どちらともいえない」が9人、無回答3人でした。「期待以上」と「期待通り」で73.7%を占めている一方、そのほかの回答が15.8%あります。

### 質問2 (b). 教科内容論、実践特別演習などの実践的科目は、あなたの期待に応えるものでしたか

「期待以上」は8人、「期待通り」は36人、「期待外れ」は1人、「科目による」もしくは「どちらともいえない」が8人、無回答4人でした。「期待以上」と「期待通り」で77.2%を占めている一方、そのほかの回答が14.0%あります。

**質問3. 期待どおり・期待以上の内容の科目があれば、その理由（どういう点がよかったのか）**

主な意見としては、基礎から応用まで本格的に学べたこと、演習形式で院生同士の活発な意見交換ができたこと、発表に対して専門家からのコメントが必ずあったこと、教員としてスキルアップができ、現場で活かせる内容だったこと、教材研究の視点や教材間のつながりが学べたこと、修士論文の問題意識を深めることができたこと、授業担当の先生が明確なねらいを持っていたこと、先生方からの惜しみなく親身な助言・指導があったこと等が挙げられました。

**質問4. 授業内容が期待にそぐわない場合、その理由（どういう点が期待通りではなかったのか）**

主な意見として、シラバスと授業内容が合致しない、授業科目名に「実践」とあるが実践的な内容でない等の科目名と授業内容が一致しない、授業担当の先生のねらいがはっきりしない、話がバラバラでつかみどころがない、院生に発表を全て任せて先生は何も言わない等が寄せられました。

**質問5 (a). 何割くらいの授業が体系的で良くまとまっていたと思いますか**

「ほとんどなかった」は0人、「約1/4」が1人、「約半分」が10人、「約3/4」が10人、「ほとんど全て」が11人、「登録科目が少な過ぎるため正確に答えられない」及び無回答が25人でした。半分以上の授業は体系的で良くまとまっていた、と感じているようです。

**質問5 (b). 何割くらいの授業が分かりやすいと感じましたか**

「ほとんどなかった」は1人、「約1/4」が1人、「約半分」が11人、「約3/4」が13人、「ほとんど全て」が9人、「登録科目が少な過ぎるため正確に答えられない」及び無回答が22人でした。半分以上の授業は体系的で良くまとまっていた、と感じているようです。

**質問5 (c). 何割くらいの授業で、担当教員が受講生の理解や反応を受け止めながら授業を進めていたと思いますか**

「ほとんどなかった」は1人、「約1/4」が1人、「約半分」が9人、「約3/4」が11人、「ほとんど全て」が13人、「登録科目が少な過ぎるため正確に答えられない」及び無回答が22人でした。半分以上の授業は体系的で良くまとまっていた、と感じているようです。

**質問6. 修士論文の研究テーマは、あなたが望んでいる内容とどの程度、合致していますか**

「よく合っている」は24人、「合っている」が24人、「どちらとも言えない」が6人、「合っていない」が1人、「全く合っていない」が0人、無回答が2人でした。ほとんどの院生が「よく合っている」もしくは「合っている」と回答しています。

**質問7. 現職教員とストレートマスターとの合同授業で感じたこと（配慮して欲しいこと）があれば、自由にお書き下さい**

大きく分けて**非常に有意義である**という積極的な意見と**配慮を求む**という2種類の意見がありました。前者の意見では、お互いよい刺激になりお互いから学び合うことができるという意見が数多くありました。これは、現職教員はストレートマスターの知識量の豊富さや物怖じせず発言する勢いに刺激され、ストレートマスターは現職教員の現場での実戦経験の豊富さや教育方法・教育観等を知ることができるので、うまくかみ合えば非常に有効に機能するものと思われま。一方、後者の注文も多くありました。現職教員も大学に来ているときは学生なので、「〇〇先生」と呼ばないで欲しいとか、「現職の先生はご存じでしょうが・・・」みたいな持ち上げ方は奇異にも感じられるようで、ストレートマスターは授業担当者が現職教員をひいきしていると見ています。要望としては、現職教員とストレートマスターと合同での時間外の課題（宿題等）は時間が合わないので配慮して欲しい、という意見がありました。

**質問8. 「その他」の自由記述**

提出数の約 1/3 に記述があり、代表的な記述をいくつか紹介します。大学院の授業なのに学部レベルの授業があり、学部の授業では高校レベルの授業がある。シラバスがいい加減なので、見直しをして欲しい。研究内容に関する資料が少ない。教育関係の授業は大人数制だが、受講者レベルを合わせた少人数制もしくはゼミ形式にして欲しい。現職教員は6、7限でも来るのが難しいので、夏休み等に集中講義でできないか。遠距離通学なので、7限を受けると帰宅できない等。また、受講者の中には全く勉強せず出席する者がいるために授業の質が低下する等、受講生は学びに来ているんだという切実なる声も散見できます。

\*\*\*\*\*

## 京阪奈三教育大学合同 FD 事業について

京阪奈三教育大学合同 FD 事業の一環として2月8日に研修会と意見交換会が開催されました。当日は、まず研修会として、竹田契一氏（大阪教育大学名誉教授）による『「発達障がい」について』の講演がありました。大学生の「発達障がい」について、さまざまな具体例をもとにお話をいただきました。学生一人ひとりの特性に応じた指導の重要性に関する示唆をいただきました。次に、授業評価に関する意見交換会が三教育大学の FD 委員によって行われました。主に学部生を対象とした授業評価アンケートのあり方を協議しました。本学からは、今年度第1回目の FD 研修会において学部全体の授業のアンケート結果を分析し共有する機会を設けたことを報告しま

した。これについては、これまでアンケート結果は当該科目の教員個人への返却が行われる一方、全体の傾向を分析し共有する機会はなかったため、参考になったとのご意見をいただきました。そのほか、アンケート項目の数や内容、自由記述の集約方法、結果の還元方法（学生による結果閲覧の方法）、大学における望ましい授業のあり方などについて意見交換が行われました。その後、来年度から実施される予定の双方向授業について、共通のアンケート項目案が示され、その内容について今後協議していくこととなりました。

三教育大学における FD アンケートの運用のされ方について共通点と相違点があらためて浮き彫りとなり、今後の本学の取り組みについて考える一つの糸口となりました。

\*\*\*\*\*

## 「大学におけるキャリア教育を考える ～企業が求める人材って、大学で育成しないとだめ？～」 大学コンソーシアム京都主催『第 17 回 FD フォーラム』参加記

山口博明

3月3～4日、京都産業大学において第17回FDフォーラムが全国からの約1000人の参加者を迎えて行われた。そのフォーラムにFD委員を代表して参加した。担当は第4ミニシンポジウムのコーディネイトで、参加者150名を対象に「分かりにくいぞ今のFD」というシンポジウムを行った。

そもそもFD担当の私が「FDについての知識が無い」状態のまま、日本を代表する規模で行われるFDフォーラム企画検討会議に参加し、そこで飛び交う謎の呪文のような用語の嵐の中「初心者向けのFD講座をしてほしい」と思わず出てしまった本音が、そのままシンポジウムの趣旨になってしまった。

そのようにして始まったが、同じ様に考える方たちの暖かい応援の中、今のFDを再整理しようという企画になった。

当日は、全国から大学教職員、学生、企業、文部科学省など様々な所属からの参加があり（数々の笑いの中）建設的な意見交換が行われた。数多くの提案がなされたが、いくつか心に残ったものを紹介する。「FDは特別なものであってはいけない。皆で良い方法を共有し合うことが大切」「大学からの発信は外だけではなく内にも向かう」「学生の力をもっと信じてうまくいく」「学びの心に火をつけよう」。

\*\*\*\*\*

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長）、杉井（副委員長）、巻本、山口（博）、樋口  
事務担当：高松、大谷